

## 令和3年度 第1回三田市環境審議会部会 議事概要

会議の名称	令和3年度 第1回三田市環境審議会部会		
会議の日時	令和4年1月27日(木) 16時00分～17時20分		
会議の場所	三田市役所2号庁舎 2階 2201会議室		
出席した委員の氏名	石田 弘明委員(環境審議会学識委員)※部会長 佐山 浩委員(環境審議会学識委員) 阪本 浩司委員(環境審議会各種団体委員) 森 里美委員(環境審議会市民委員) 増原 直樹委員(専門委員:地球温暖化対策に関する学識者) 生田 佳寛委員(専門委員:クールチョイスネットワーク会議参画事業者)		
出席した庶務職員の職及び氏名	事務局	まちの再生部	久高部長
		環境共生室	川田室長
		環境創造課	辻下課長、辰巳係長、寺嶋主任
		アセス株式会社(委託業者)	待井、小西、小仙
傍聴者の人数	5名		
取材者の人数	0名		
議題	1. 開会 2. 挨拶 3. 出席者紹介 4. 議事 ① 環境審議会部会について ② さんだゼロカーボンシティ推進計画策定概要について ③ 地球温暖化に関する国内外の動向について ④ 温室効果ガス排出量の現況推計方法及び推計結果について 5. その他 6. 閉会		
会議の概要	・さんだゼロカーボンシティ推進計画の策定概要等について説明を行い、それに対する質疑を行った。		
公開・非公開の区分	公開		
使用した資料の名称	資料1:三田市環境審議会規則 三田市環境審議会ゼロカーボンシティ推進方策検討部会設置要綱 資料2:さんだゼロカーボンシティ推進計画策定概要 資料3:地球温暖化に関する国内外の動向 資料4:温室効果ガス排出量の現況推計方法及び推計結果 参考資料:地球温暖化に関する関連法令、制度等 参考資料:地球温暖化対策実行計画(区域施策編)に関する他市事例		

## 1. 議事内容

事務局	<p>(資料1「三田市環境審議会規則」及び「三田市環境審議会ゼロカーボンシティ推進方策検討部会設置要綱」に基づいて説明)</p> <p>(特に意見なし)</p>
事務局	<p>(資料2「さんだゼロカーボンシティ推進計画策定概要」に基づいて説明)</p>
部会長	<p>計画策定の背景について、地球温暖化の専門家であり、兵庫県の計画づくりにも関わっておられる委員がいらっしゃいますので、何か情報提供がありましたら教えていただけますでしょうか。</p>
委員	<p>兵庫県では、昨年12月に新たな削減目標の案が環境審議会大気環境部会に示され、来週に2回目の審議が行われる予定となっています。兵庫県の特徴としては、全国と比較して産業部門の割合が高くなっていることが挙げられます。全国では産業部門の割合は4割以下ですが、兵庫県では65%となっていることから、事業者へのヒアリングを行って削減目標を積み上げているとの説明がありました。温室効果ガス排出量の構成としては、二酸化炭素が94%を占め、それ以外のガスが6%となっています。</p>
部会長	<p>対象とする温室効果ガスについて、事務局としては二酸化炭素のみを対象としたいとの提案になっていますが、ご意見等がありますでしょうか。</p>
委員	<p>国のマニュアルでは、二酸化炭素以外のガスについては「可能であれば把握が望まれる」とされているため、せめてメタン、一酸化二窒素については検討していただければと思います。ただし、スケジュール的に難しいということであれば、次回の計画改定の段階で加えるという方向性もあると思います。また、イメージしやすいということであれば、メタンについては廃棄物の埋立に伴って排出されることから、ごみの減量や資源化を進めることがメタンを減らすことにもつながります。そういったことを踏まえて、入れられる段階になれば、ぜひメタン、一酸化二窒素を入れていただいた方が、より厳密なゼロカーボンの姿につながると思います。</p>
事務局	<p>二酸化炭素についてもどうやって計算するか苦慮しているところです。メタン、一酸化二窒素については、廃棄物などを減らしたらどれだけ排出量が減るのかが明らかに分かるのであれば、積極的に含めたいとは思っていますが、そういった情報がかめるのかという不安はあります。</p>

委員	<p>数値目標や進捗管理など、実績の把握や管理というところが重要だと思いますので、まずは二酸化炭素を対象として取り組んでいき、そこから取組が広がっていった時に追加していくという展開が望ましいのではないかと思います。</p>
委員	<p>計画を作って一番大事なのがゼロカーボンにしていくということですので、メタン、一酸化二窒素を試算するのにどれだけ労力がかかるのか、どれだけ意味があるのかということを考えるべきだと思います。例えば、特定の業種でこれだけメタンが減らせるというのであれば、施策の方で取り入れればいいのではないかと思います。</p>
委員	<p>メタンや一酸化二窒素がどのくらいの割合があるのかが分からないので、二酸化炭素に限定するという点については少し疑問が残りました。ハイドロフルオロカーボンについては、フロン排出抑制法の関連で監視されていると思うので、決して把握するのは難しい話ではないと思います。また、パーフルオロカーボン、六ふっ化硫黄、三ふっ化窒素については、排出している企業は三田市市内にはごく少ないので、ある程度の算定はできるのかなと思います。二酸化炭素以外のガスがどれくらいの量で、どれくらい対策が難しいのかが見えない状態で切り捨ててしまうのは違和感を覚えます。</p>
事務局	<p>メタン、一酸化二窒素については、耕作、畜産、廃棄物の焼却や埋立、排水処理などから排出されるため、田や畑の面積、家畜の頭数といった情報があれば算定することはできますが、フロン類については個別に把握するのは難しいため国全体の排出量から按分して算定せざるを得ないことも考えられます。そういったことを踏まえて、算定することにどれだけ意味があるのか、対策・施策に有効であるのかななどを総合的に考える必要があると思います。</p>
部会長	<p>二酸化炭素を中心にしながら、どこまで対象を広げられるのか、費用対効果も踏まえて事務局で検討していただければと思います。</p>
事務局	<p>検討させていただきます。</p>
部会長	<p>検討結果は次回に示していただけるということでしょうか。</p>
事務局	<p>はい。</p>
部会長	<p>続いて、計画に定める内容について、ご質問、ご意見などがあればお願いいたします。例えば、県の計画でも同じような内容になるのでしょうか。</p>
委員	<p>計画を作るための国のマニュアルがあり、そのマニュアルに沿って作るた</p>

	<p>め、他の自治体でもだいたい同じような構成になってきます。内容について確認ですが、今回の地球温暖化対策推進法の改正で追加された地域脱炭素化促進事業や促進区域といった話は計画に含まれるのでしょうか。</p>
事務局	<p>先行地域については、市の中では検討中という段階です。</p>
委員	<p>そのような情報についても、可能な範囲で部会に出していただければと思います。対策・施策のところでもそういった内容にも触れていくことになると思いますので、うまく調整、連携できればと思います。</p>
部会長	<p>続いて、策定スケジュールについて、ご質問、ご意見などがあればお願いいたします。</p>
委員	<p>温室効果ガスの排出量を計算するのは大事なことです、それなりに手間がかかるため、それをどこまで詰めるかということ以上に、温室効果ガスの排出量を減らしていくための方策を検討するということが一番重点を置くべきところだと思います。今のスケジュールでは、4回目に初めて具体的な方策が出てくるようにも見えるので、もう少し前倒しで議論できると、より方策に厚みが出てくるのではないかと思います。2回目に温室効果ガス排出削減ポテンシャルを議論することになっていますが、ここであまり具体的でなくてもいいのである程度の方策の頭出しが示せれば、3回目、4回目で具体的な事業やプロジェクトを議論しやすくなると思いますので、可能な範囲で検討していただければと思います。</p>
部会長	<p>私も同じようなことを考えておりまして、具体的な方策を考えるのが今回の一番重要なところですので、少しでも前倒しできればと思いますが可能でしょうか。</p>
事務局	<p>方策の頭出しについては、どこまで出せるかということも含めて、できるだけ頑張りたいと思います。</p>
委員	<p>温室効果ガス排出量のうち、どこをどれだけ下げていくかという話になると、本当にどれだけ下げられるのかという実現性を見ていかないと目標設定ができないと思いますので、次回に削減ポテンシャルに対する方策や削減目標のたたきが出てくると考えやすいのではないかと思います。</p>
事務局	<p>(資料3「地球温暖化に関する国内外の動向」に基づいて説明)</p> <p>(特に意見なし)</p>

事務局	(資料4「温室効果ガス排出量の現況推計方法及び推計結果」に基づいて説明)
部会長	二酸化炭素排出量の現況推計方法や推計結果について、ご質問などがあればお願いいたします。
委員	次回の話になると思いますが、将来推計について、例えば三田市の世帯数を考えるときには総合計画などに出ている数値に基づいて計算するという理解でよいのでしょうか。
事務局	将来推計をする際には、家庭部門であれば世帯数、製造業ではあれば製造品出荷額等といったそれぞれの部門と関連性がある指標を考え、その伸び率を基に推計していきます。
委員	ゼロカーボンについて検討していく中で、再生可能エネルギーに関する指標や方策はどこで出てくるのでしょうか。
事務局	次回、削減ポテンシャルの検討の中で、再生可能エネルギーの導入によってどれだけ削減できるかを具体的に示せると思います。さらに、そこからどれだけ対策が必要になるのか、どれだけの目標を設定できるのかといった議論になるとと思います。
委員	温室効果ガス排出量の推計結果を見ると産業部門の割合が高いので、商売をされている方に対して、どのように省エネや節電をしていくかを伝えていかなければいけないと思います。しかし、制限するというのは売上などの影響もあってなかなか厳しいため、補助や国の取組との連携がどうなっているのかについて教えていただければと思います。
事務局	再エネを導入したり、省エネに取り組んだりすることでどれだけ下げられるかを市として具体的に示していき、そのための補助や情報提供についても検討していかなければいけないと考えています。
委員	製造業では設備投資の額も大きくなり、省エネ設備を入れた方がいいのは分かっても入れ替えられないというのが現状かなと思いますので、情報提供に加えて金融機関と連携して融資を優遇するといった取組があればいいと思います。
事務局	最後にスケジュールについてですが、今回は3月の最終週かその前の週を目途に委員の皆さまと調整させていただきたいと思います。

	<p>それでは、本日はこれもちまして閉会させていただきたいと思います。ありがとうございました。</p>
--	---

以上